

とびだそう 未来へ

目次

巻頭言

人生を生きる エネルギーに ②

共に考え、共に語り合う道德科の授業
池田 富太郎

特集／生徒の心を揺さぶる授業づくり

話し合いツールの活用と 発問の工夫 ④

西海 秀人

評価・問い返し・板書の工夫 ⑥

三浦 祐司

いじめについて 本音で話し合うための工夫 ⑧

前田 静香

生徒が感動を覚える、 魅力的な教材の開発と工夫 ⑩

名手 久美子

連載／道德授業をおもしろくする！

小さな道德授業を道德科授業に生かす ⑫

鈴木 健二

連載／いじめをなくす道德授業

どんな人として記憶されたいだろう ⑭

千葉 孝司



教育出版

人生を生きる エネルギーに

共に考え、共に語り合う 道徳科の授業

いけだ とみたろう
池田 富太郎

東京福祉大学特任教授



中学校で「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）がスタートして5か月が経ちました。1学期末には、道徳科における生徒の学習状況及び成長の様子についての評価を通知表に記入された先生も多くいるでしょう。そうした中、道徳科の授業で「生徒たちの議論が深まりにくい」とか「とおりいっぺんの意見の表明に終始してしまう」という先生がたの声を耳にします。しかし私は、こうした声をとてもうれしく思います。現状を「よし」としないで、「改善しよう」「改善したい」という思いが伝わってくるからです。「もっと議論を深めさせたい」「生徒が自分なりに考えぬいたことが表明される授業がしたい」という強い思いを感じます。そして、道徳科に対して「考え、議論する道徳」への転換が求められていることの影響を強く感じます。

生徒と共に考え、共に語り合う

「考え、議論する道徳」への転換に求められる「質の高い多様な指導方法」を取り入れるべく、日々指導法を研究・改善することは重要です。では、道徳科の授業で最も大切にしなければならないことは、なんでしょうか？ 私は「生徒と共に考え、共に語り合う」姿勢で授業を行うことだと考えています。

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」に、

学習指導要領第3章の「第2 内容」は、教師と生徒が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題である。学校の教育活動全体の中で、様々な場や機会を捉え、多様な方法によって進められる学習を通して、生徒自らが調和的な道徳性を養うためのものである。それらは、教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要としての道徳科はもとより、全教育活動において、指導されなければならない。（下線は筆者）

とあるとおり、教師と生徒が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合う、これこそが、道徳科の授業の本質ではないでしょうか。

私は、中学校で長年社会科を担当していました。社会科の知識や理解という点で、私を超える生徒はそうはいません。それに引き換え、道徳の授業では私に新しい発見や気づきを与えてくれる生徒が大勢いました。共に考え、共に語り合う中で、教師自身も成長するのです。

そのため道徳科の授業では、教師は肩の力を抜く必要があります。「指導者」ではなく、「人間としての生き方について共に探究するもの」という意識をもつことが重要です。そして、着実に年35時間の授業をやりぬくことです。こうしたことから、学校のような場や機会においても、教師と生徒が、また生徒どうしが道徳的諸価値について、共に考え、共

に語り合うようになっていくのではないでしょう
か。道徳教育の要である道徳科としての役割を果た
すことになります。

そうしたことが、生徒一人一人が活躍できる授業、
教師が生徒の本音に耳を傾けようとする授業、話し
合って多様な見方・考え方に気づき、学びの意義を
実感できる授業の実現につながっていきます。

道徳で教師の同僚性を高める

学校における教師の同僚性は、「実践について話
し合う、相互に観察し合う、カリキュラム（授業・
単元）を一緒につくる、互いに教え合う」ことによっ
て高まります。同僚性が高い職場は、支え合い、切
磋琢磨する機会が豊富にあります。同僚性の高い学
校では、リラックスした雰囲気の中で、多様な学び
合いや育ち合いが生まれます。ここでは、教師どう
しが共に考え、共に語り合うことが大切なのです。

「中学校学習指導要領」第1章総則第6の1に、次
のような一文があります。

1 各学校においては、第1の2の(2)に示す道徳教育の目標を踏まえ、道徳教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開すること。

道徳教育推進の取り組みは、学校の同僚性づくり
にも関わってきます。なぜなら、「校長が明確なビジ
ョンを示し、中心となる教師がリーダーシップを
発揮し、教職員が共有できるミッションをもつこと」
が大切であるとされているからです。そのミッシ
ョンを果たすためには、「実践について話し合う、相
互に観察し合う、カリキュラム（授業・単元）を一
緒につくる、互いに教え合う」場や機会を設定する
必要があります。その場や機会は、継続的な校内研
修会だと私は考えます。校内研修会が同僚性を生み
出す「しかけ」として機能するのです。

道徳科の校内研修会をデザインする

では、道徳科の指導をより充実したものにするた

めの校内研修会とは、どのようなものなのでしょうか。

学校ごとに、道徳科の課題は違います。改善の方
向も違います。また、初任者、ベテラン教師といっ
た経験年数の違いによっても、課題や改善の方向は
違います。そうしたことを踏まえ、道徳教育推進教
師が中心となって授業の充実を図っていくこと、特
に、校内研修会を自校のオリジナルとなるようデザ
インしていくことが重要なのです。

道徳の教科化が決まってから、私にも校内研修会
での講師の依頼がありました。その多くは、「道徳
科の指導と評価」をテーマとした講演でした。しか
しこうした内容の講演を聴くことだけで、その学校
の道徳科の課題を踏まえた、有効な改善につながる
のでしょうか。

他方で、事前に道徳教育推進教師から、過去の校
内研修会の内容、自校での推進上の課題、改善の方
向（求める姿）、教師や生徒の状況、各教師からの
質問事項、講師に期待することなどを、伝えてきて
くれた学校がありました。また、授業研究を主とす
る研修会では、授業の構想・指導案作成への助言、
検討会への参加などを依頼してくれた学校もありま
した。私もその期待に応えようと、何度か連絡を取
り合い、準備を進めました。

私の力量で、どこまで期待に応えられたかは疑問
です。しかし、道徳教育推進教師がデザインした校
内研修会は、その学校のオーダーメイドの研修会に
なりました。そして、私自身の研修の場と機会にな
りました。

このように、道徳の校内研修会のデザインを講師
と共に考え、共に語り合う中で、多くの道徳教育推
進教師が成長していきます。そしてこうしてつくり
上げた道徳科の授業を保護者や地域のかたがたに公
開することによって、共に考え、共に語り合う輪が
さらに広がるのです。

道徳科の授業が、生徒のみならず、教師をはじめ
とする多くの人々の成長を促し、人生をよりよく生
きるエネルギーになることを願っています。

話し合いツールの活用と発問の工夫

活発な議論から深い学びへ

にしがい ひでと
西海 秀人 南アルプス市立若草中学校教諭

●はじめに

『考え、議論する道徳』への転換』がいわれて久しい。「議論」という言葉が独り歩きし、「議論すべきなのか」「話し合っていればいいのか」という部分に注目されすぎていると思われる。しかし重要な点は、新学習指導要領で説かれている「深い学び」を、道徳科の授業で実現していくことである。ここでの「議論」はあくまでそれを導くための話し合いなのである。その形態についても、グループかペアかといった、特定の正しい形態があるということではない。

道徳科の授業は、他の教科のような予備知識や成績の上下が関係しない。その学びの過程では、全ての生徒が互いの価値観や経験をもとに、話し合い活動に参加することができ、誰かが「一方的に教える」ものではない、本質的な学び合いの時間をつくることができる。また、教師自身も、授業の運営者として生徒と同じように学びと向き合うことができるのである。

道徳科での話し合いは、まず何を話し合わせるのかという点を意識して、積極的にその場面をつくっていくことが大切である。活発な道徳科の授業とするために、現在私なりに留意している点が三つある。

- ① 一人一人の考えを整理する時間の確保
- ② 話し合いツールの活用
- ③ 発問の工夫

ここでは②と③について、簡単に紹介していく。

●話し合いツールの活用

まず、前任校で「北中ボード」と呼んでいた手製のホワイトボードの活用について説明したい。

校内研修会で、話し合い活動を活性化させるツールとして、ホワイトボードが適しているのではないかという意見が出された。しかし、グループでの活動に適したサイズのは案外と高額で、全ての教室に必要な枚数を備えることは困難であった。かといってサイズを小さくしてしまうと、グループでは使いにくい。ためしに他の教科で購入していたクラス分のボードで試してみたものの、重量がありすぎて曲面の黒板にはうまく貼り付かず、全体掲示に不都合であることもわかった。それなら「自分たちで作れば」ということで、マーカー用のシートを大量に購入し、それを厚紙に貼りマグネットを付けてボードを作成した。「北中ボード」の完成である。これは軽くて黒板にもそのまま掲示することができ、授業への活用が容易になった。作成作業も熟練すると意外に簡単になったので、各教室はもちろん特別教室分まで作成し、全ての教室で同じ規格で授業ができるようになった。

●ホワイトボードはどう使うのか

課題となったのは、このボードはどう使ったら効果的なのかという点である。当初、発表用の提示ツールとしてこのボードを考え、「大きな文字で、4行を目安に書く」といった使い方が考えられた(図1)。しかし、ボードを用いて話し合い活動を行うのに、これを発表のみに使うのは、話し合いを活性化させるツールとすることにはならないのではない

大きな文字で
わかりやすく
4行程度にまとめる
北中ボード



図1

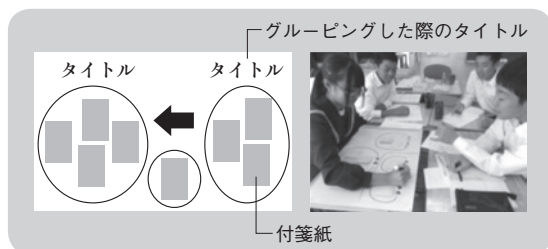


図2

か、という指摘がなされ、北中ボードを「思考を可視化するツール」として、改めて捉え直すことになった(図2)。さらに研究を重ねる中で、授業に応じ付箋紙を活用して小さな意見を出し合い、それを可視化して「学びを深めていくツール」とするということも北中ボードの活用法の一つとして取り入れられるようになっていった(写真1)。

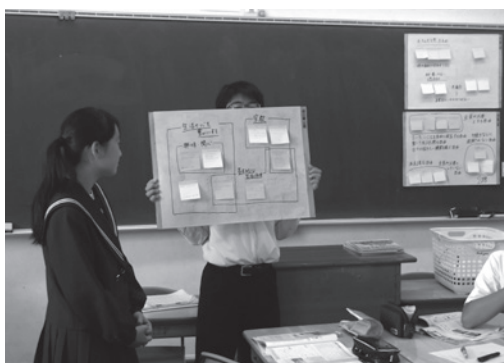


写真1 思考を可視化し学びを深めていく

これは全職員に共有され、各教科でも同様の方法で実践された。生徒は自身の考えが授業で生かされていくことから、ボードが配られると自然とグループワークが行えるようになっただけでなく、自分の意見や考えをもって参加する姿勢が備わっていった。

●議論を活発にする発問の工夫について

次に、発問の工夫について少しだけ述べておきたい。道徳科の授業の良しあしは発問で決まる。発問は、教科書などにも例示されているが、常に授業の実態に即しているとは言いがたく、工夫を凝らした授業であっても、心情理解や状況説明の問いだけで、活発な議論をしていくことは難しい。仮に「いじめについてどう思うか」という問いを立てれば「よく

ないと思う」という答えが返ってくることは明らかであり、善悪を問うようなものや、一定の価値観を聞き出すような発問では「正解はこれですか?」という授業になりかねない。

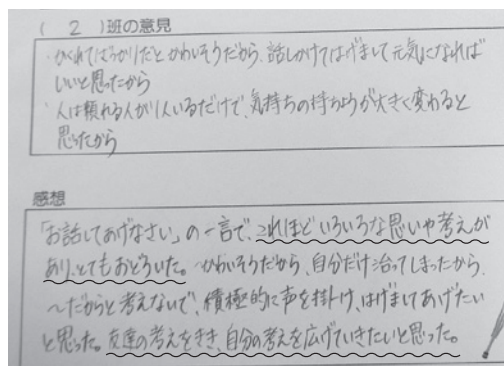


写真2 「活発な議論」後の生徒の感想

議論を活発にする発問は、価値観が相克するようなものでなければならない。実際の生活場面では、正しいこととまちがっていることが、立場によって大きく変わることもあるからである。「多面的・多角的」な視点から物事を判断し、異なる考え方にも耳を傾け、共感的理解をする姿勢を身につけていくことが大切であり、個人の生活に引き寄せた議論にしていくことが必要である。前述の「いじめ」についても、「どう思うか」という問いを出させたあと、「では『いじめがよくない』とみんながわかっているのになぜいじめは起こるのか」という問いを提示すると、しばらくの沈黙ののちに、自身の体験を踏まえた様々な答えが返ってきた。

議論のための発問は、あくまで「議論になる発問」でなければ、決して能動的な活動とはなりえない。

●おわりに

「議論を活発にする」には、「何を話させたいのか」「どんな方法が適切か」「全員が参加できる内容・時間なのか」という視点で考える必要がある。道徳科の授業だけでなく、各教科における実践が積み重なることで、「考え、議論する」という形態に生徒や教師が習熟し、それを連携させていくことで「深い学び」へと進化していくことができるのである。

評価・問い返し・ 板書の工夫

授業の質を高め、
生徒の学びを深める

みうら ゆうじ
三浦 祐司 東松山市立白山中学校教諭

●道徳科の評価とは

評価について、学習指導要領には、「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある」（第3章第3の4）と書かれている。つまり見取るべきポイントは、「学習状況」と「道徳性に係る成長の様子」である。また、それらは人格全体に関わるものであり、かつ、道徳性が養われたか否かは容易に判断できるものではないことから、継続的に把握し、成長や努力を認め、励ます個人内評価として行うこととされている。

●指導と評価の一体化をはかる

まず前提として、評価するために指導するわけではない。明確なねらいに沿って、議論し合う中で生徒の心が揺れ動き、その変容を教師が見取ることが評価につながるのである。

次に、評価をするということは、それを見取るための活動が授業の中に必ず必要となる。無計画に授業を行い、あとから評価できる部分を振り返るといのは望ましくない。そのため、あらかじめ、ねらいの中に具体的な学習活動を盛りこんでおくといふと考える。具体的には、「家族について、自分の言葉でまとめ、周囲と共有し合うことで、多様な考えに触れ、思考を広げたり、深めたりし、考えを再構築することを通して、家族の在り方について理解し、家族を大切にする態度を育てる」や、「責任について、

様々な角度から問い続けることで、視野を広げ、役割演技で、自分の考えと実感を比較し、行為の裏にある思いを探ることをを通して、責任をもつことについて理解し、誠実に生きようとする態度を育てる」という具合である。当然、ねらいに含めた学習活動を展開の中に盛りこむことになる。指導計画の中に評価の視点が含まれているため、どこを見取ればよいかが明確になる。また、生徒の変容を見取ること、ねらいを達成できたのか、それに迫るための学習活動は適切であったかなど、授業の評価・改善にもつながっていく。

具体的に、「学習状況」と「道徳性に係る成長の様子」を捉える視点として、以下のような例があげられる。

①学習状況について

- ・発言から
 - 「隣の人に」「全体に」「積極的に」発言していたか、等。
- ・ノートへの記述から
 - 毎時間記述したものを蓄積していくことで変容を見取ることができる。
- ・様子、表情等から
 - 他の生徒の意見を聞く様子（うなずき、首振り）等。多様な考えに触れようとしているか。
- ・道徳的行為に関する体験的な学習
 - 「演者として」「聴衆として」思考と実行の差を感じているか。

②道徳性に係る成長の様子について

- ・授業前後の価値の捉え
 - 変容した。変容しない。その過程を見取る。
- ・心の揺れ
 - 「問い返し」により、「理解していたつもり」から「腑に落ちる」「自分なりの納得解」へ。
- ・自分ごととして問題を捉える
 - 人間の弱さ、醜さと向き合えたか。
- ・多面的・多角的に考える
 - 一時、場、人を変え、広い視点から考えられたか。

●学びを深める「問い返し」の工夫

道徳科の目標には、「①道徳的諸価値についての理解を基に、②自己を見つめ、③物事を広い視野から多面的・多角的に考え、④人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」（マル数字は筆者）とある。つまり、①の価値理解は前提であるものである。例えば「友情、信頼」について、多くの生徒は授業前から、「相互に変わらない信頼があり、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまない平等で対等な関係である」ということは、頭では理解しているのである。道徳科の授業はその理解を基に、考えをより深めていくものでなくてはならない。そこで重要な役割を果たすのが、「問い返し」とであると考ええる。

まず、②の「自己を見つめ」するためには、授業での生徒の発言と普段の生活態度とのズレを教師が問うてみたり、道徳的価値についての生徒の授業前の捉えと、授業での発問に対する発言との矛盾点をついたりすることが有効である。頭では理解していたつもりであった価値について、本当の意味で深く理解できていない自分に、生徒は気づくことができる。

そうして初めて、視点を変えるための「問い返し」を教師が行えば、道徳的問題について、③の「多面的・多角的に」生徒は考えようとするのではないだろうか。教師は、発問に対する生徒の反応を実態把握から多く予想し、補助発問として、それらに対する「問い返し」を用意しておき効果的に問う。そうすることで、生徒の心が揺さぶられ、生徒たちはいったん混乱の状態に陥る。その時、本当の意味で、道徳的価値について向き合っていけるようになるのである。（その

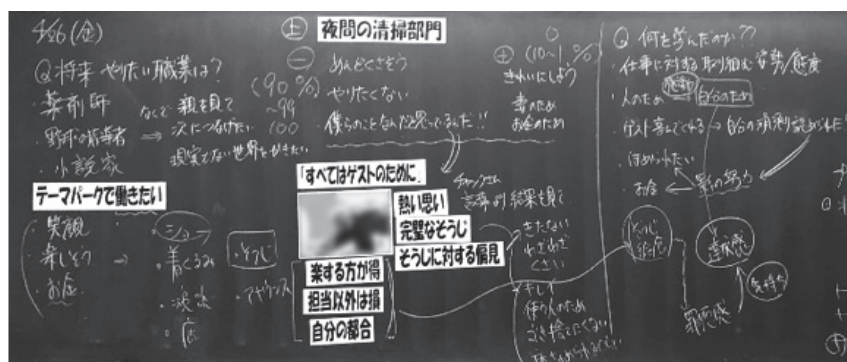
ためには、主発問は生徒の多面的・多角的な発想が引き出される場面を重視して設定する必要がある。）このようにして、初めの価値理解をより高次の次元へと教師が引き上げていくことで、自分なりの納得解を生徒にもたせたい。

最後に「では、今後自分たちはどう生きていきたいのか」といった具合に、自分に返していくことで、④の「人間としての生き方についての考えを深めていくことができるのである。

●板書の工夫

「考え、議論する道徳」を展開していくうえで、板書の役割は重要であると考ええる。構造的に示していくことで生徒の思考が整理され、議論が活発になる。しかし、板書をきれいにまとめようと意識しすぎると、逆に生徒の意見が反映されず、教師の独りよがりの板書になりかねない。生徒の考えを多く取り入れ、生徒と教師が共に思いを出し合い、共に板書をつくるように心がけるとよいと考えている。

そのようにして、授業の最後に板書を振り返ることで、生徒たちは自分たちの変容が見えてきたり、新たな発見が出てきたりすることもあるのではないだろうか。教師は、板書を記録として取っておくことで、生徒の発言を授業後に振り返ることができ、生徒の評価に活かしつつ、自らの指導の評価にも活用できる。また、次年度の教師に引き継ぐことにより、学校全体の授業の質の向上にもつながっていくのである。



授業時の板書

いじめについて 本音で話し合う ための工夫

まえ した しず か
前田 静香 鳥取市立鹿野学園教諭

●学習指導要領解説を読みこみ、 授業のねらいを絞りこむ

道徳の教材でいじめを扱うものは、内容項目「公正、公平、社会正義」(C-11)の内容となっていることが多い。

教科書にある主題名やねらいは、日本全国の中学生に授業できるように、一般化してつくってある。そのため、目の前の生徒の現状に合わないこともある。だから、学級が抱えている問題は何か、目の前の生徒に考えさせるべきは何かを、いちばん身近にいる教師が考えていく必要がある。

授業づくりは、学習指導要領解説を読みこみ、ねらいを絞ることから始まる。いじめに関する何について話し合わせるのか、被害者、加害者、傍観者のどの立場のことを考えさせるのかといったことを絞りこんでいかなければ、一般論を話し合うだけの授業になってしまうからだ。

「公正、公平、社会正義」の解説を読むと、概要として、「私心にとらわれて事実をゆがめることを避ける」「正しいことを自ら認識し、それに基づいて適切な行為を主体的に判断し、実践しようとする」「人が踏み行すべき正しい道」「偏ったものの見方や考え方を避ける」「好き嫌いから他者に対して偏見をもたない」「誰に対しても分け隔てなく公平に接し続けようとする」など、多様なことが書かれている。何を考えさせるのか絞りこまなければ、論点の定まらない授業になってしまう。

正しいとわかっていてもなかなか行動できないの

が人間である。現実には、「見て見ぬふりをする」「避けて通る」といった消極的な態度をとってしまうことがある。自己中心的な考え方、偏見、不公平な態度、傍観、安易な同調、自分かわいさから勇気を出して不正を止めることができない、そういった現状もある。一人一人が、自分の弱さに向き合っていかなければならないのである。

●生徒の現状や問題点を分析する

いじめられる側にも問題があると思っている。
自分がやられそうなら助けない。
見て見ぬふりをする。関わりたくない。
一人では止める勇気がない。
いじめは、なくならないと思っている。

授業前の、生徒のいじめに対する前理解を把握する。そして、授業を通して何に気づかせたいか、どう変化させたいか、理想とする姿を設定する。

●教材は当日までに読んでくるよう、宿題を出す

教材を読んでから、あえて時間をおいて授業することの利点は、生徒に考えを巡らせる時間を確保できるということだ。事前に読ませることで、自分の過去を振り返ったり、自分の考えをまとめたりできる。また、気になったところに線を引いたり、読んだ感想を書いたりもできる。こうした心の準備ができる。

授業内で範読しないことで、教師も生徒も余裕をもって十分に思考を巡らせる時間をつくることができる。全員が一つのテーマに沿って意見を出し合うことができる。

●ワークシートは家で書かせる

また、授業中にはワークシートを書かせない。授業では話し合うことに集中させる。そうすることで、友達の意見を聞いて自分の考えをさらに発展させたり、一人では思いつかない考え方に出会ったりすることができる。自然と、一人一人の考えをじっくりと聞く態度が育ち、話すほうも安心して自分の考え

を言えるようになる。お互いに認め合う雰囲気生まれ、学級経営にも大いに役立つ。

振り返りのワークシートでは、今日の授業で学んだことは何かを問い、宿題として家に持ち帰って書かせる。家族と話す生徒もいて、家庭で再考する時間をつくることができる。生徒は、誰かの意見ではなく、自分が考えたことや本当に心に残ったことを書いてくるようになる。

●生徒に生き方を考えさせる中心発問をつくる

- ①生徒にとって本当に考えたいことか
 - ②きれいごとではなく本音を言える発問か
 - ③人間としての生き方を考える発問か
 - ④大人でも答えを出すのが難しい発問か
 - ⑤一人一人が多様に考えられる発問か
- これらに気をつけて、発問をつくる。

●どうしてそう考えたのか、理由を尋ねる

発問に対する生徒の発言を受け止め、どうしてそう考えたのか理由を尋ねる。理由を問うことで、生徒の本音を引き出せる。教師は生徒の発言をつないでいくだけでよい。

●授業実践

教材 「卒業文集最後の二行」(『私たちの道徳 中学校』文部科学省)

授業のねらい

あえて、人間の心の闇について考えていくことを通して、いじめの根本には人間の心の弱さ・醜さ(意地悪・ストレス・不満・嫉妬・偏見・優越感・自己

中・差別心等)があり、自分自身のいじめにつながる気持ちに向き合うこと、それらを克服して人間関係を紡いでいこうとする心情を育てる。

自分ごととして考えるための導入の工夫

この話を読んでどう思ったか、感想を交流させる。いじめの悲惨さ、いじめはダメだとわかっていてもしてしまう人間の愚かさに話題が集中していく。人間は弱さ・醜さをもった生き物である。いじめはダメだとわかっていても、いまだになくならない。

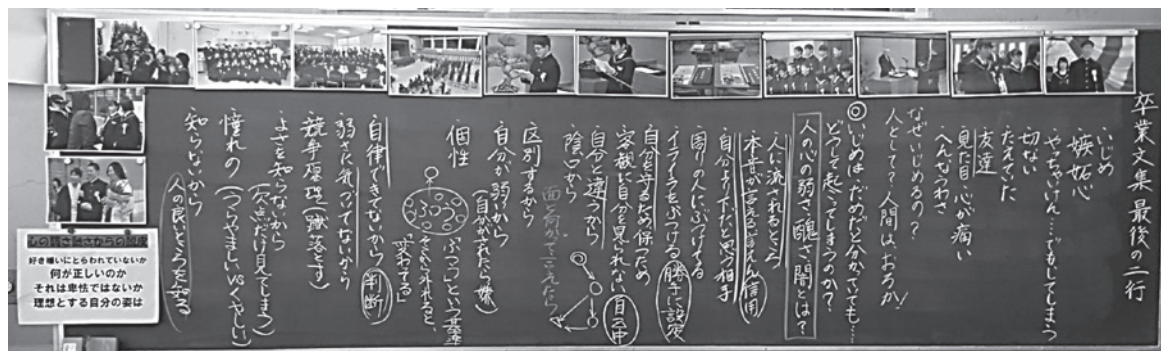
中心発問

「いじめはダメだとわかっていても、どうして起こってしまうのだろうか。人間の心の弱さ・醜さ・闇とは何か。」と問い、理由や、自分とのつながりを話し合わせ、加害者の心の弱さについて考えていく。その心の弱さは誰にでもあり、一人一人がそれらを克服していかなければ、いじめはなくならないと、生徒は考えるようになる。

考えたことを書く

今日の学習を通して考えたことを、家でワークシートに書かせる。

今日の道徳は、私たちが結構考えにくい、いじめの話でした。私もそうだけど、どうしても人間は見た目で判断したり、自分よりも相手を下に見たりしてしまう傾向があるので、それがひどくなるといじめにつながるんだと思いました。自分を見失わず、誰かを傷つけないためにも、生涯いじめは、絶対にやってはいけないことのひとつだと思いました。(生徒の感想)



授業時の板書

生徒が感動を覚える、魅力的な教材の開発と工夫

JAXA宇宙教育推進
指導教材〈道徳編〉を活用して

な て く み こ
名手 久美子 大田区立田園調布中学校教諭

「感動」とは物事に深く感じて心が動くことである。自然や芸術、人の生き方など、美しいものや高いものに触れることによって、人は感動を味わい、人生をより豊かなものとするができる。また、異質なものと出会いや非日常的な体験などの際にも人は感動する。そこで、「非日常的」で「宇宙や星空の美しく神秘的な画像」や「宇宙飛行士や科学者たちの挑戦や強い意志」などの特長をもつJAXA宇宙教育推進指導教材〈道徳編〉を活用することで、生徒が感動を覚えるような魅力ある道徳の授業をつくり出し、ねらいとする道徳的価値に深く迫りたいと考えた。

●授業までの流れ

- 1 JAXA宇宙教育推進指導教材〈道徳編〉の特長を分析する。
- 2 生徒の実態に応じて、教材を選定する。
- 3 指導方法の工夫の視点（教材提示の工夫、視覚教材の活用、他の活動との関連、発問の工夫、話し合い活動の工夫、ワークシートの工夫）をもとに、本教材を効果的に活用した授業を実施する。

●指導の実際

以下に、1年生での事例を示す。

教材名：「高い塔を建ててみなければ新しい水平線は見えない！」

内容項目：A- 4 希望と勇気、克己と強い意志

ねらい：高い目標を志し、困難に屈しないで粘り強く最後まで確実にやりぬこうとする心情を育てる。

教材の内容：小惑星探査機「はやぶさ」による世界初のサンプルリターンの計画や過程で、科学者や技術者が様々な困難を克服し成功を果たすまでの心情に焦点を当てた実話。

指導の工夫：

- ①映像資料やBGMを活用して「はやぶさ」が成し遂げた世界初の偉業の数々を理解し、サンプルリターン計画の難しさを理解させる。
- ②JAXA宇宙教育推進指導教材の画像を提示して、「はやぶさ」について理解を深めさせる。

指導過程（学習活動と主な発問、○…指導上の留意点）

- 1 小惑星探査機「はやぶさ」について知っていることを発表する。
○「はやぶさ」の写真を提示する。
- 2 「はやぶさ」の映像資料を提示する。
○サンプルリターン計画の世界初の挑戦を確認し、計画の困難さを感じ取らせる。
- 3 教材を読む。
○専門用語を簡単に説明しながら範読する。
発問1 「はやぶさ」が打ち上げられた時の川口さんはどんな気持ちだっただろう。
○計画が1985年に始まり打ち上げが2003年であることを踏まえ、長年の構想が実現した気持ちに共感させる。
発問2 （中心発問）「はやぶさ」の電波が途絶えて、チームのメンバーが諦めかけていた時に、川口さんはどんなことを考えていたのだろう。（4人組での話し合い）
○広大な宇宙の中で小さな探査機を見つけるのが困難であることをおさえ、メンバーに広がるショックと不安に共感させる。
発問3 「はやぶさ」の任務が全て終わった時の川口さんはどのような気持ちだっただろう。

○「燃え尽きるはやぶさ」「笑顔の川口さん」の写真を提示し、苦勞の末に勝ち得た川口さんの実感を味わわせる。

4 本時のまとめをする。

○音楽と映像を流し、本時の余韻を残す。

本時のまとめ

〈授業後の生徒の主な感想〉

- ・諦めずに一つ一つのことをやれば必ず目標を達成でき、努力の満足感を味わえると思った。
- ・夢を叶えるには莫大な時間とそれを諦めない心が必要だと思った。
- ・研究所で働く人はすごいと思った。諦めていたはずなのに皆最後までその研究を成功させる気持ちがあり、私はこういう研究をしてみたいと思った。

〈教材について印象に残ったこと〉

- ・川口さんの情熱や熱意、諦めなかったところ
- ・「はやぶさ」の画像や映像
- ・20年という人生に1回かもしれない挑戦であること

などの回答が得られた。本時のねらいに関して、「困難に屈しないで粘り強く最後まで確実にやりぬくこととする心情」だけでなく、「粘り強くやりぬくことの難しさ」や「生徒自身の生き方」などにも考えが広がり、深い価値理解と感動が得られたと感じられた。

●指導方法の工夫と成果

JAXA 宇宙教育推進指導教材は「非日常的」で、「宇宙や星空の美しく神秘的な画像」や「宇宙飛行士や科学者たちの挑戦や強い意志」があり、指導方法の工夫によって、感動を覚えるような、魅力ある道徳の授業をつくり出すことができる。

発問の工夫について

主人公の心情の読み取りに終始しないように、教材の背景や主人公の状況に生徒自身が置かれた場合を想像させて考えさせた。

発問1では、打ち上げまでの長年の苦勞を確認し構想の実現への思いに共感させることで、中心発問

での主人公の苦悩をより鮮明にした。

発問2（中心発問）では、本時のねらいに迫ることができる、「考え、議論する」に足る発問を設定した。また、補助発問として「主人公はどのような気持ちから宇宙開発に『失敗はない』とメンバーに言ったのか」を準備し、主人公の中にある強い意志について深く考えさせた。発問1を踏まえることで主人公の苦悩がより明らかになり、補助発問で主人公の発言にこめられた強い意志に焦点を絞り、本時のねらいに迫ることができた。

発問3では、主人公の心境に寄り添うことにより、強い意志を全うすることから得られる達成感や達成感を味わわせ、ねらいとする心情を育むことができた。

話し合い活動の工夫について

4人組での話し合いは、生徒一人一人の意思表示ができた。さらに友達意見を遮らずに聞く等のルールを示すことで、安心して意見が出せる雰囲気をつくるよう心がけた。ねらいについての議論だけでなく、内容の理解にも効果的であった。

ワークシートの工夫について

話し合い活動の際、友達の意見を記入する欄を設けることにより、自分の考えをより深く見つめさせることができた。

JAXA 宇宙教育推進指導教材の活用効果について

授業後の生徒のアンケートで、本時におけるJAXA 宇宙教育推進指導教材の活用および指導方法の工夫について尋ねた。「話し合いによって自分の考えを深めることができた」「新しい発見や気づきがあった」「教材に興味・関心をもつことができた」等の肯定的な回答がほぼ80%と高く、本教材の活用および指導方法の工夫は効果的であったと考える。

●今後の課題

宇宙に関する内容の学習の時期を考慮することにより、教材内容の理解に費やす時間を減らし、ねらいに深く迫る時間を増やしたい。また、体験活動を活用することで、教材をより身近なものとして捉え、道徳的価値を深く理解することができると思われる。

小さな道徳授業を 道徳科授業に生かす

すずき けんじ
鈴木 健二 愛知教育大学教授

「考え、議論する道徳」へのステップ

多くの小中学校では、「考え、議論する道徳」を意識した道徳科授業への取り組みをしようとしています。しかし、なかなかうまくいかず、苦戦している学校のほうが多いようです。

1時間の道徳科授業で、いきなり「考え、議論する道徳」を目ざすのは、ハードルが高いのです。

そこで提案したいのが、

小さな道徳授業を「考え、議論する道徳」
を実現するためのステップにする。

ということです。

小さな道徳授業であれば、朝の会などの短い時間を活用して、実践することができます。教育課程に位置づけられているわけではないので、気軽に試すことが可能です。

まずは、小さな道徳授業をとおして、「考え、議論する道徳」を実現するための方策を考えてみてはいかがでしょうか。

小さな道徳授業で「考え、議論する」 ことのおもしろさを体験する

右の写真は、ある小学校のトイレに貼ってあったシールです。このシール1枚で小さな道徳授業をつ

くることができます。

以下、授業プランを示します。

1 「一滴の水も大切に！」という標語を隠して、シールを提示する。

発問1 カップはなんと言っているのでしょうか。

2 標語を提示して音読させる。

発問2 一滴くらい気にしなくてもいいのではないのでしょうか。

※気にしなくてもいいかどうか、○×で選択させる。

3 「一滴の水も大切に」することができるかどうか話し合う。



標語を隠して提示し、興味を高めたあとに発問1をすることによって、生徒はカップが言っているこ

とを考え始めます。

そして、「愛知県水資源対策室」という言葉やカップの頭の水滴を手がかりに、生徒からは「水を大切にしようということを言っているのではないか」という考えが出されるでしょう。そのあと、「一滴の水も大切に！」という標語を提示して、印象づけます。

道徳授業では、このように教材に興味をもたせたり、問題意識を高めたりすることが大切です。

発問2では、気にしなくてもいいかどうか、〇×で全員に自分の考えをもたせ、挙手によって人数を確認します。意見が分かると、違う考えを聞いてみたい、という意識が生まれてきます。それぞれの理由を発表させると、議論に発展していきます。

多くの生徒は、気にしなくてもいいという考え方に反対することでしょう。そこで、「一滴の水も大切に」することができるかどうかを話し合わせることで、切実な問題として捉えさせます。

このように、小さな道徳授業では、短時間で「考え、議論する道徳」を生徒に体験させることができます。

小さな道徳授業で「考え、議論する」ことのおもしろさを体験していくと、1時間の道徳科授業でも少しずつ「考え、議論する」ことができるようになってきます。小さな道徳授業の波及効果が表れるのです。いきなり1時間の道徳科授業で「考え、議論する」を目ざすのではなく、小さな道徳授業から取り組んでみましょう。

1時間の道徳科授業と連動させる

小さな道徳授業は、1時間の道徳科授業と連動させることによって、さらに効果を高めることも可能です。

「変わりゆく地球」という教材があります（『中学道徳3 とびだそう未来へ』教育出版）。

開発で消失する森林や後退する氷河、消えゆく湖など、世界中で起きている自然環境の変化を写真で提示し、地球の変化をこのままにしてしまっているかを問いかけ、自分との関わりの中で考えさせる内容です。

この教材と「一滴の水も大切に！」を次のように連動させて活用することができます。

- 1 朝の会などで「一滴の水も大切に！」の小さな道徳授業を行っておく。
- 2 1時間の道徳授業で「変わりゆく地球」を扱ったあと、「一滴の水も大切に！」との関連を問いかけて考えさせる。

発問 「一滴の水も大切に」する意識は、これからの地球とのつき合い方と関係あるでしょうか。

※関係あるかないか、〇×で選択させて話し合わせる。

関係があるかないかで意見が分かれたら議論させます。ほとんどの生徒は、「一滴の水も大切に」する意識と、これからの地球とのつき合い方は関係があると考えることと思いますが、議論することによって考えはさらに深まります。小さな道徳授業のあとに書かせておいた感想の中から異なる考えをいくつか紹介して、議論を深めることもできます。

小さな道徳授業で「一滴の水も大切に！」について考えを深めていたことが、「変わりゆく地球」での学びをより深いものしてくれるのです。

どんな人として 記憶されたい だろう

ちば こうし
千葉 孝司

おとふけ
音更町立音更中学校教諭

いじめ授業をマンネリ化させないために

いじめとは何かを教えることは大切なことだ。例えばいじめアンケートをとったときに、「いじめをしたことがありますか」と問われても、加害者が「あれは遊びだし、いじめではないよな」と考えてしまえば、どんないじめをしても「いいえ」という答えになってしまう。何がいじめにあたる行為なのか、誰の立場で判断するのかは繰り返し教えなくてはならない。

一方、小中学校で道徳が教科化され、毎年いじめをなくすための授業が行われることは、生徒の立場になってみるとどうであろうか。

「ああ、またいじめの授業か」「いじめは何かあったもいけないことだって言うておけばいいんでしょ」と考える生徒も少なくないだろう。いじめをなくすための授業が繰り返し行われることは、マンネリ感を抱かせ思考停止に陥らせる危険性をはらんでいる。

思考停止に陥らせないために

ただし生徒の関心をひきつけようとして、よりセンセーショナルな内容、残酷で悲劇的な内容を取り扱い続けることには反対である。

それはいじめとはきわめて悪質で、ひどいことときに人を死に追いやるものであるというイメージが固定することにつながるからである。このいじめのイメージに、なにひとつまちがいはない。生徒に

教えなければならないことでもある。しかし日常でのいじめ指導の際に「それはいじめだよ」と言えば、加害者、被害者双方が「そんなひどいことではありません」と口にするような奇妙な状況が生まれる。

日常の些細な言動の中にこそいじめの芽はあり、それを注意深く見つめなければならないが、いじめの残酷なイメージが強調され続けると現実との乖離が大きくなってしまう。

また、いじめの事件や事実を伝え続けることで、性悪説に基づくような人間観が形成されることもある。さらに人は残酷な場面では、しばしば思考停止しようとするものである。

一つのいじめ防止授業で完結するのではなく、その積み重ねが何を生み出し、何を生み出さないのかを考える必要がある。

いじめと両立しないものにこそ向き合わせる

いじめを生む人間の弱さ、醜さを見つめさせることは大切である。しかしそれは人間のもつすばらしさを十分に見つめさせてからである。順番をまちがえるといじめを許容し、なくそうと努力することがきれいごとに見られるようになってしまう。

いじめという言葉にとらわれすぎずに、いじめと両立しない、自分の理想とするすばらしい生き方に向き合わせたいものだ。

道徳授業「どんな人として記憶されたいだろう」

内容項目 A-3 向上心、個性の伸長

本時の目標 自分の個性と行動を振り返り、周囲にどのような影響を与えているかに気づき、よりよい行動を選ぼうとする心情を育む。

本時の展開 ◎…教師の主な発問・指示等 ◆…生徒の活動

導入 これまでの出会いを振り返る。

◎人の一生を80年と考えると、平均して3万人の人に出会うそうです。これまでの出会いの中で忘れられない人はいますか。忘れずに覚えているのはなぜですか。

- ・小学校の時の友人。とても親切にしてくれた。
- ・幼稚園の先生。いろいろなことを教えてくれた。

展開1 それぞれの個性について考える。

◎ドラえもんに出てくるのび太、ジャイアン、スネ夫、しずかちゃんは、皆とても個性的です。どんなキャラクターとして皆さんは記憶していますか。彼らの特徴をグループで話し合っ
て、三つずつ出しましょう。

◆ワークシートに記入したあと、グループで話し合う。

- ・のび太 おっちょこちょい あわてんぼう 優しい のびのびとしている
- ・ジャイアン 乱暴 わがまま 自由 行動力がある
- ・スネ夫 ズルい お金持ち 世渡り上手
- ・しずかちゃん 勉強ができる 優しい 優等生 人気がある

グループごとに発表させ、出た意見を板書する。

◎あなたは今まで出会った人に、どんな人として記憶されていると思いますか。黒板に書かれた特徴を参考に、いくつか書きましょう。

◆ワークシートに記入する。

展開2 自分の理想像について考える。

「君は何によって憶えられたいかね」。ある少年が13歳のとき、先生が尋ねました。教室に答えられる生徒はいませんでした。先生は「今答えられると思って聞いたわけではない。でも50歳になっても答えられなければ、人生を無駄に過ごしたことになるよ。」と言いました。少年は、この問いを人生の早い時期にかけられたことを、大人になってから感謝しています。なぜなら人生を通じて、自分自身に問い続けることができたからです。

◎この中学校を卒業する時、あなたはどんな人として他の人に記憶されたいですか。三つ書きましょう。書いたら、そう思う理由や、自分の理想像（憧れの人、尊敬する人、その人の個性や生き方のどんなところをすばらしいと思うか）について、グループで交流しましょう。

◆ワークシートに記入し、交流する。

展開3 自分の日頃の行為を振り返る。

◎ちなみに少年の名はピーター・F・ドラッカー。後に「20世紀の知の巨人」「経営の神様」「マネジメントの父」と呼ばれた人です。彼は、未来の種は現在の中にあると考えました。あなたは理想とする自分になるために必要な種を、現在の生活に植えていますか。理想の自分になるために必要だと思うことを書いてみましょう。

◆ワークシートに記入する。

終末

理想に近づくために努力しようという意欲をもつ。

◎ドラえものの秘密道具に、未来へ送ることのできる手紙があります。未来の自分に手紙を書いて、今の思いを伝えてみましょう。

◆「THE GIFT」平井大（映画ドラえもん のび太の月面探査記 主題歌）を聴きながら書く。

ワークシート

組 名前

○のび太： ジャイアン：
スネ夫： しずかちゃん：

○どんな人として記憶されている

○どんな人として記憶されたい

○そのために必要だと思うこと

○未来への手紙



第17回

まもなく締め切り!!

地球となかよし メッセージ

作品募集 (2019年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

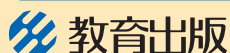
応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生 (数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2019年7月1日 ~ 9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境 や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交 流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催／教育出版 ◎協賛／日本環境教育学会
◎後援／環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



教育出版

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品



地球を救う花

この地球を救う花は、まずお花なので二酸化炭素を吸って、酸素を出します。それに葉と花びらは太陽光パネルになっているので、発電も出来ます。さらに花びらの部分が風で回って、風力発電も出来る花です。

みんなが大好きな自然と地球が私達の何代も先の未来でも、愛されて続けるように、こんなお花が地球中にたくさん色鮮やかに咲くといいと思いました。(中学3年)

中学道德通信 とびだそう未来へ (2019年 秋号) 2019年8月31日 発行

表紙写真：フォトライブラリー

編集：教育出版株式会社編集局

印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：伊東千尋

発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)

URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003	札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011	函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014	仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011	名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056	大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカビル7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051	広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004	松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007	福岡市博多区東恵比寿2-11-30 クレセント東福岡 E室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155	那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」ののっとり、配付を許可されているものです。